

ささえあい 会報 第65号

2018年10月号

2018.10.12



風に揺れる可憐な秋の花コスモス。国道403号線の秋葉区のフラワーロードでは、この時期、4キロに渡り咲き乱れる姿は圧巻です。



発行

行

ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟
〒950-2026 新潟市西区小針南台3-16
(JR小針駅前「葡萄の木」)
TEL: 025-378-6181 FAX: 025-230-6680
HP: <http://www.sasaeai-coop.com/>
E-mail: seikyou-jimukyoku@sasaeai-coop.com
※この会報は組合員様向けに発行しています

ささえあい生協 13年目の課題

想いが伝わらない、理念が浸透しない

理事長連載

「ともに支えあって生きる社会をめざして(1)」の問いかけに応じて

先回の会報第64号より、高見理事長の「ともに支えあって生きる社会をめざして」の連載が始まりました。先回の冒頭で、当生協の理念や目的などが充分伝わっていないという、理事長の嘆きにも近い言葉がありました。

どうすれば、法人の理念や思いが伝わるのだろうか、活動の輪が広がるのだろうかという課題に対し、組合員さん・職員より様々な意見が寄せられました。大いに参考になり且つ共感できる声に、今後のヒントを見出せるのではないのでしょうか？

組合員さんの意見1

～ささえあい生協の理念や活動について～



「組織拡大のための組合員増に意味はあるのか？それよりも、組合員向けの懇談会などの機会を増やし、丁寧に理念を伝えていく方が大切なのではないだろうか。」(清水 勝さん)

「組合員としては長く在籍しており、理事長ともお話ししたこともあり親しみを持っている。そして、団塊の世代の一員として、ささえあい生協の活動は、今後ますます重要性を増してくると思っている。ただ、ささえあい生協の存在を広めようと思っても、人に上手く説明する事が難しく、わかりやすいリーフレットがあったり、身近な組合員活動が増えると伝えやすいと思う。」(Kさん・女性)

「組合員の中でも働いている人や介護施設を利用している人は、生協を身近に感じているかもしれないが、一般の組合員にとっては、生協に入っているけれど接する機会が少なく、関わりが少ない。協同の理念は素晴らしいのだが、理解が難しい面があり、大上段に言われてしまうとますます取っ付きづらい。

その段階まで一気にいくというよりは、まず懇談会や行事などで知り合いになり、お互い顔の見える関係を作っていくことが、第一歩なのだと思う。」

(長谷川 誠一さん)

次ページへ続く⇒

組合員さんの意見1を受けて高見理事長より



～おっしゃる通りだと思います。懇談会や行事、身近な組合員活動、わかりやすいリーフレット、顔の見える関係づくりから…、それらの活動・取り組みをもっと広げ、増やしましょう。

できれば、総代・組合員さんの力をお借りして、役職員と一緒にやればよいと思います。

また、組合員増は生協にとって重要な問題です。第一に、当生協の理念・目的に賛同する仲間が増えれば事業とその目的である「よりよい社会を築きます」が一步進みます。第二に、出資金が増えます（出資金は法人の基金であり、事業体の血液です）。血液が不足する（＝貧血状態）と人手や設備などが確保できず十分な活動ができません。（安定した事業経営には事業高の2～3か月分の運転資金が必要です。）

組合員さんの意見2 ～協同労働について～



1.同一労働同一賃金の原則、2.各事業所の出来高は夏あるいは冬の臨時支給による 3.マイナス事業所においては、1を原則とし、最高3年単位で、その可否を事業者が判断し、理事会に委ねる。ただし、各事業所および総事業所における欠損ならびに補填は明確に表記（若井 浩さん）

～介護事業所は、統一給与表をベースに事業所で給与・賞与を原則予算の範囲内で算定し、本部に「確認申請書」を提出してもらっています。事業所ごとに損益計算し貸借対照表も作成し、事業所・本部間の資金融通も貸借計上しており、若井さんの考えとほぼ同じです。



次期リーダー研修より ～法人の一体感を感じにくいこと、理念や方針が伝わらないことについて～

- 自分の事業所の運営だけで精一杯
- 法人運営は現場にとっては遠いことのように感じる
- 法人が大きくなり、上層部との距離ができ、スローガン（重点課題など）が浸透していない。上からだけではなくて、いくつかの候補から自分達の投票で選べるようにしては。
- 理事長の話やビデオメッセージがあるとよい。
- 本部の人達にもっと事業所へ来て欲しい。
- トップダウンとボトムアップのバランスが取れた情報共有が望ましい。
- リーダーとして法人全体を意識することも必要である。



～職員の意見を参考にして、役員とくに本部役員はもっと事業所現場に入り、現場の実情や職員の考えを聞いて法人の運営に活かしていきたいと思います。



9月14日（金）に次期リーダー研修を行いました。生協の理念・方針・協働の考え方の講義とグループ討議を織り交ぜ、職場の協同・職員交流・法人意識・現場の悩みなどについて話し合いを行いました。話し合いを通じ、理解を深め、想いを共有し、新たな気づきが生まれた有意義な研修でした。

理事長の危機意識とこの現状を変えたいという思いが、多くの智恵を得て、動き出すきっかけを掴めたことを確信しました。組合員さんの言葉の中に「一気に行くというより、…まずは第一歩を。」とありました。届けられた声に耳を傾け、コミュニケーションを重ねることで、着実に形になっていくことでしょう。

また、今後も理事長の連載は続きますので、是非注目ください。（編集部）